

# (仮称) 秋田市こども計画 (原案) に対する意見募集結果

## 1 意見募集期間

令和7年12月17日(水)から令和8年1月16日(金)まで

## 2 意見提出者数

9人(パブリックコメント8名、市民100人会1名)

## 3 意見数

10件

## 4 意見と対応

No.	原案ページ	該当箇所・項目	意見要旨	意見に対する市の考え方
1	35	施策1-1-1こどもが権利の主体であることの理解の促進	<p>31ページでは、「こども調査」の分析で「こどもの権利の理解の浸透を図る必要があります。」とあり。また、国が実施した「児童の権利に関する条約の認知度調査」の引用から「学校でこどもの権利について学ぶ時間をつくる」「学校の先生など、こどもとかかわる大人がこどもの権利について学ぶ時間をつくる」「学校でこどもの権利について学ぶ時間をつくる」と学校教育での子ども自身が「子どもの権利」を学ぶ機会を求めていることや関わる教職員の理解を求めていることを記している。</p> <p>しかし、方向性には具体的な取り組みがみえない。</p> <p>「主な取組・事業」には各学校・学年での「子どもの権利」を学ぶ授業を行うことや教職員の研修に含めることなど、「秋田市未来を築く子どもを育むための市民や社会の役割に関する条例」を定めた秋田市だからこそより積極的な人権教育を学校教育でも行うべきではないか。</p>	<p>各校では、社会科や道徳科の授業の一部において人権についての内容を含んだ学習を行っています。また、秋田市教職員研修では、「子どもの権利」に係る内容も取り上げ、実施しているところでは、</p> <p>今後も、子どもの権利を大切にす視点から、全ての子どもたちの健やかな成長を支える学校教育の充実に努めていきます。</p>
2	35	施策1-1-1こどもが権利の主体であることの理解の促進	<p>【資料】「児童の権利に関する条約の認知度等調査報告書(令和7年3月)(こども家庭庁)」より作成は、令和6年3月ではないか。</p>	<p>ご指摘の通り、令和6年3月に修正します。</p>
3	66	施策2-1-2幼児期までの子どもの成長への支援	<p>各施設の保育士の人数を増やし、かつ各保育士の給料もアップするようにしていかなければ、計画の成功は難しいのではないかと。各保育施設に対しては、経費を補助するようになっているが、その経費は施設の管理者の管理下に置かれ、現場の保育士には届いていない。現場の保育士の給料の待遇は各施設に任せられるため、保育士は給料がアップしなければ更に現状より厳しい労働環境となると考えられる。</p>	<p>保育士の賃金については、処遇改善等加算のほかに、令和4年度からは国の公定価格の人件費分の引上げが行われており、令和7年度は前年度比5.3%程度の増額改定が行われております。これらの改定等による増額分の職員への適切な支給について引き続き確認をしております。</p>

No.	原案 ページ	該当箇所・項目	意見要旨	意見に対する市の考え方
4	109 110	施策4-1-1 子育てや教育に関する経済的負担の軽減	原案の110ページの「第1子保育料無償化事業」などは「作成中」との事だが、市長選の公約で「子育て3つの無償化」を掲げて当選されたので、来年度は是非とも所得制限等のない「給食費、医療費、保育料の完全無償化」を実現していただきたい。	医療費と保育料の完全無償化につきましては、財政状況を勘案しながら、実施時期等を検討してまいります。 小学校の給食費無償化については、国の方針を踏まえ、令和8年4月からの実施に向け、準備を進めております。また、中学校の給食費無償化については、今後も国や県の動向を注視しつつ、市の財政状況を勘案しながら、実施時期等を検討してまいります。
5	109 110	施策4-1-1 子育てや教育に関する経済的負担の軽減	保育料について、多子軽減制度の充実を求める。年の差があっても、第2子、第3子と認めていただきたい。	現在、国に対して多子軽減制度を含めた保育料の制度拡充を要望するとともに、本市でも財政状況を勘案しながら、完全無償化の実施時期等を検討しているところです。今後も、子育てにおける経済的負担の更なる軽減に向け、努めてまいります。
6	117	施策4-4-1 仕事と子育ての両立支援	子どもが産まれた時、両親が子育てを手伝ってくれる場合は良いが、核家族化が増えているので、夫婦で子育てをしなければならない時は、父親に育児休暇を取ってもらわなければ、母親だけでは子育てができないと思う。 男性の育児休暇を取れる職場はまだ少なく、取れたとしても女性と違い短い。介護の支援はケアマネージャーやホームヘルパーがいて充実していると思うが、子育てに関して、育児について困ったことがあったら相談できる老人介護センターのような窓口があると良いと思う。 公的な機関で、子育て支援センターがあり、相談できる窓口があると一人で育児を頑張っている方は、買い物や掃除、困ったことを頼めるヘルパーがいると本当に助かると思う。 人口減少の秋田県だが、安心して子どもを産んで育てられ、子育て支援センターもあり、困った時は相談もできるというようになると助かると思う。	本市では、子ども家庭センター内に秋田市版ネウボラや子ども家庭相談などの子育てに関する相談窓口を設置しております。多様な悩みや不安の解消につながるよう、今後も、相談しやすい環境づくりに努めてまいります。

No.	原案 ページ	該当箇所・項目	意見要旨	意見に対する市の考え方
7	-	-	<p>小中学生の意見として「公園、遊ぶところ、楽しい施設など」を求める声が多いようだが、中学生・小学生の子をもつ親として、「どこかに出かけたいと思っている子ども、休みの日くらいは外出させたいと思っている親、友達同士で出かける機会が増えつつある中学生の子」といった様々な思いの中で日々生活している。</p> <p>最近感じることは、「読書に触れる時間が人によって大きな差がある」、「オンラインゲームが発達してきているので子どもが外出するきっかけが得られにくい」、「子ども同士で遊興施設で遊ぶことを制限している学校が多い」といったことが挙げられる。</p> <p>県立図書館を覗いてみると駐車場は満車で、学習スペースを中心にたくさんの小～高校生がいるにもかかわらず、図書館の利用状況が10%程度であることから、利用する人とならない人の差が大きいのだと思う。また、P50に「同級生同士で遊べたりできる所が欲しい」という声がある一方で、各地のコミセンの体育館などは簡単に予約が取れる。オンラインゲームの発達でわざわざ集まる（外出する）必要性も薄れており（特に夏休み等）、「予約などをすることなく、気軽に友達同士だけで集まることのできる場所」が求められているのかと思う。</p> <p>例えば、図書館を友達同士で集まって話したりできる場所としての活用、子どもを対象とする図書館利用を目的とした循環交通手段の確保など、既存施設を活用したソフト対策で子どもたちの学力向上・運動不足解消・コミュニケーション活性化に資する取組があると親としてはありがたい。そのような場が子育て世帯同士（親同士）のつながりにも発展するものと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。いただいた意見については、今後の対応の参考とさせていただきます。</p>
8	-	-	<p>マラソン大会でなぜ男の子は1周多く走らなければいけないのか、子どもに聞かれて答えられなかった。そもそも順位付けが疑問。だから、秋田は遅れていると言われる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。いただいた意見については、今後の対応の参考とさせていただきます。</p>
9	-	-	<p>ここ数年で、保育者の処遇改善が進んだが、労働内容に大きな変化はないように思う。保育短大の学生も、高収入、条件の良い求人を探して県外に流れている傾向にあるように感じる。</p> <p>これでは、秋田の保育を支えていく人材がいなくなってしまうと危惧している。秋田市の子育てを下支えしているのは、毎日の保育現場に立っている私たち保育者だと自負している。正職員、パートに関わらず、日々、子どもたちの命を必死に守っている。しかし、時給換算すると1,000円程度になり、他の飲食店等の給与と変わらない。秋田市独自に、保育者への処遇改善措置を考えていただけないか。</p>	<p>保育士等に対する処遇改善等加算の実施については、国の公定価格に基づく基本分単価や各種加算等により対応していることから、本市独自の加算等は、現在のところ予定しておりませんが、引き続き、他都市の取組や国の施策の動向を注視しながら、保育環境の整備に努めてまいります。</p>

No.	原案 ページ	該当箇所・項目	意見要旨	意見に対する市の考え方
10	-	-	<p>秋田の教育現場にも、多様性を認め合い、誰もが安心して通える魅力ある学校づくりが必要だと思う。その為には、忙しすぎる学校現場にゆとりをすることや、地域が学校を応援できるような仕組みづくりなどができないか。</p>	<p>本市では、秋田市立小・中学校における多忙化防止計画に基づき、各校が策定した多忙化防止対策をもとに、各種行事の精選やICTを活用した業務改善に取り組むなど、教員の負担軽減を図っています。また、各校の学校運営協議会において、学校、家庭、地域が連携して子どもを支援する取組について協議するなど、地域全体で子どもをはぐくむ学校づくりに努めています。</p>